

第 72 回 明の衰退

1 北虜

・15 世紀に入ると、明は（ ）と呼ばれる外交問題に苦しむようになり、これが明の衰退を早めたとされる。

- ・北方に撤退したモンゴル人だったが、再び勢力を取り戻して中国に侵入してきた。
- ・1449 年、（ ）というモンゴルの部族を率いる（ ）によって、明の（ ）が北京近郊の土木堡で捕虜となった。
※これを（ ）という。
- ・（ ）の（ ）もたびたび中国に侵入し、1550 年には北京を包囲するなどした（庚戌の変）。
→明は、（ ）を修理・補強して、モンゴルの攻撃を防ごうとした。
→アルタン=ハンは、長城の外にフフホトなど中国風の城郭都市を作らせた。



エセン=ハン

オイラトの指導者でモンゴルを統一した。中国侵入の真の目的は、征服というより明との朝貢貿易拡大にあった。



正統帝(英宗)

まだ 22 歳だった正統帝は、宦官におだてられて戦争に踏み切り、あげくのはてに捕虜となった。ただしエセン=ハンには丁重に扱われ、後に帰国した。



明代の万里の長城

万里の長城と聞いてイメージするのは、明代の長城である。元々は戦国時代に趙や燕が匈奴対策に建造したものを、秦の始皇帝がつなげて完成させた。

2 南倭

- ・日本の鎌倉幕府の力が衰えると、地方武士などが勝手な行動をとるようになった。
→中国や朝鮮の船や沿岸を襲うなど、海賊行為や密貿易を行うようになっていた。
※これを（ ）という。
- ・前期倭寇は日本人が中心となったが、後期倭寇は中国人が中心となった。

- ・1372 年、明は、洪武帝が（ ）により民間の貿易を禁止して朝貢貿易のみ認めていたが、倭寇の活動が活発化する結果となった。
→明は、倭寇の取り締まりと正式な交易を求めて、日本に使者を送った。
→1401 年、室町幕府の（ ）はこれを受け入れて国交を樹立した。
- ・この朝貢貿易は日明貿易と呼ばれるが、正式な船と倭寇を区別するため、勘合符を持つことが義務付けられていたため、別名で（ ）ともいう。
- ・1523 年、日本の細川氏と大内氏が貿易をめぐる衝突した、寧波の乱が起こった。



倭寇

倭寇とは、「倭(日本)による侵略」という意味で、後には海賊そのものを意味するようになった。ただし略奪だけでなく、密貿易も多く行った。



王直

王直は 16 世紀に日本の五島列島などを拠点として、密貿易を行った後期倭寇の伝説的な頭目である。種子島に鉄砲が伝来した際、通訳を務めたのも彼らしい。



足利義満

室町幕府の第 3 代将軍で、南北朝を統一した人物。勘合貿易が始まったのは、永楽帝の時代であり、足利義満は日本国王に封じられた。

3 明の衰退と改革

- ・16世紀になると、北虜南倭に対する防衛費の増加などで、明の財政は急速に悪化していった。



万曆帝
張居正の死後は、
宦官を重用した。

- ◆ () (在位 1572~1620 年)
 - ・内閣大学士として () を起用し、改革を行わせた。
 - 張居正は、兩税法に代わる税制として () を全国で施行するなど、財政改革と和平の実現に努めた。
 - しかし張居正の死後、改革の成果はすべて無になった。

- ・16世紀の明では、() や () から持ち込まれる () が、通貨として流通するようになっていた。
 - そのため土地税と人頭税をすべて銀で納める一条鞭法を施行した。



張居正

能力は間違いなく高かったが、改革のためにライバルを蹴落としていくようなところがあり、非常に憎まれていた。



馬蹄銀

銀はコインとしてではなく、重さで量って使用された。馬の蹄の形をしているので、この名前がついた。

4 明の末期症状

- ・1592年、日本の () による、朝鮮侵略が始まった。
 - ※日本では ()、朝鮮では () という。

- ・日本軍は連戦連勝で、あっというまに都の漢城を征服した。
 - 明は朝鮮に援軍を送り、朝鮮も將軍 () が () を用いて戦い、義兵が抵抗するなどして、徐々に日本は後退を余儀なくされた。
 - 豊臣秀吉の死後に日本は撤退して和解したが、朝鮮や明も大きな打撃を受けた。
- ・江戸幕府が成立すると、朝鮮は () を日本に派遣した。



豊臣秀吉

農民出身で、織田信長に仕えた後、天下を統一した。秀吉は、明を征服して天皇を北京に移すことまで考えていたらしい。



李舜臣

イ=スンシンと読む。現在でも韓国の国民的英雄とされている。各地に残る李舜臣像は、全て日本の方向を向いているらしい。



亀甲船(亀船)

亀甲船は、上部に尖った部分に取り付けられていたとされる。伝説的な部分が強すぎて、実際どのような船であったかは、はっきりとわかっていない。

- ・そのころ中央では、() など () を拠点とする () が大きな政治勢力となっていた。
 - 魏忠賢など宦官中心の () と激しく対立した。
 - この党争によって政治は麻痺状態になっていった。



魏忠賢

明は宦官による政治の乱れが目立つ王朝である。魏忠賢は東廠という秘密警察を操って、絶大な権力をにぎった。